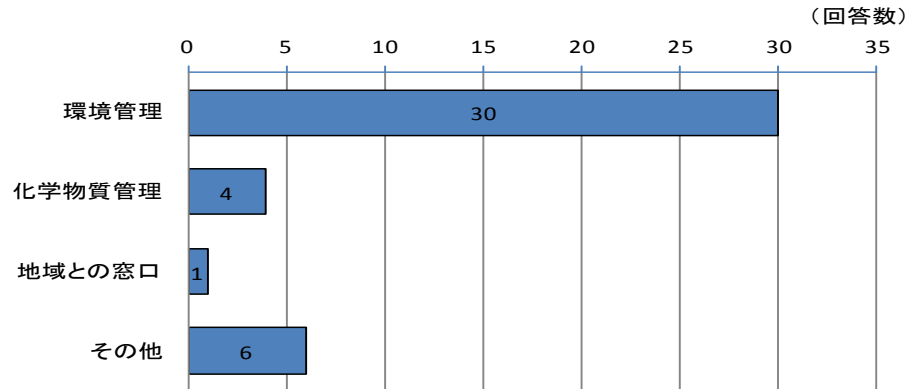


「事業者のためのリスクコミュニケーションセミナー」参加アンケート集計結果

セミナー開催日 平成24年7月10日（火）
開催場所 宮城県庁行政庁舎2階 第二入札室
参加者 県内の製造業を中心とした事業者42名、行政2名
回答率 回答41件/事業者42名（98%）

1 参加者の所属での担当業務について（一つ選択）

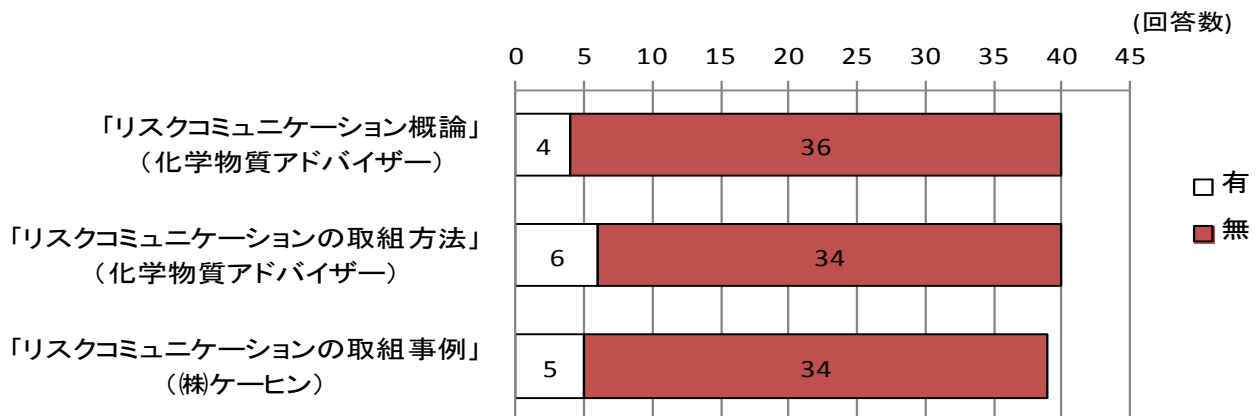


<その他の内容>

総務・経理/工場・設備保全/ISO14001.OHSAS18001（*）の管理責任者/
リサイクル推進に関わる業務/産業廃棄物の分析/研究開発

* OHSAS とは、労働安全衛生マネジメントシステム (Occupational Health and Safety Assessment) のこと。

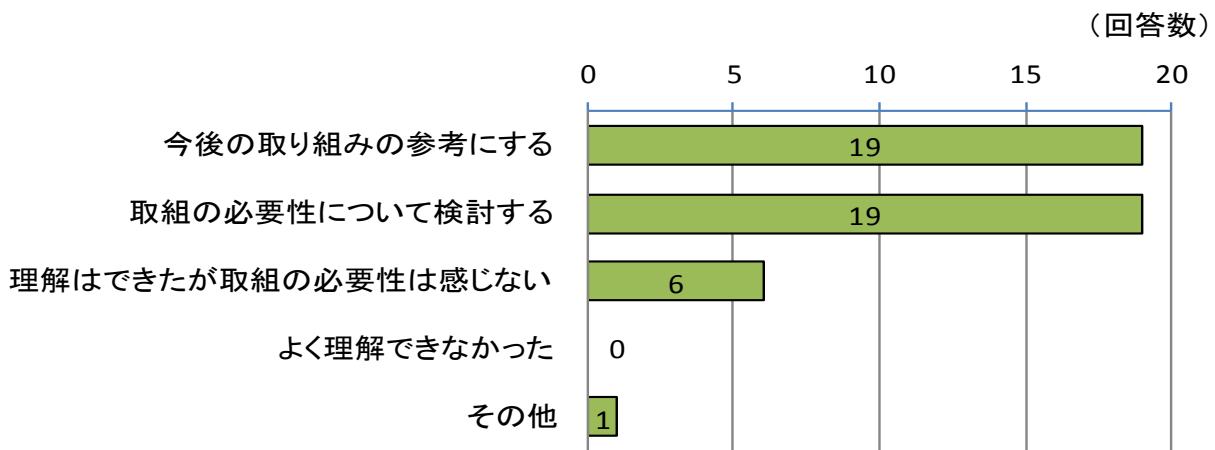
2 講演・事例紹介内容について、さらに詳しく聞きたい点の有無について



<有の内容>

- 「リスクコミュニケーション概論」について
 - ・ 環境リスクの低減方法について
 - ・ 有害性の程度を示す指標が数多くあるが、重み付けをすることは可能か（低減対策をする上で対象物質の優先順位を決めたいため）
- 「リスクコミュニケーション取組方法」について
 - ・ 環境リスクの主な評価方法の詳細等
 - ・ 継続開催する中で、環境リスクの説明等1年目はOKとしても2年目以降困る住民も…
 - ・ 他社事例
 - ・ 規制対象物質以外のリスク対象物質を事業所として取り組む必要があるのか？
- 「リスクコミュニケーションの取組事例」について
 - ・ 改善点や参加した方の反応等
 - ・ リスクコミュニケーションを開催するにあたって社長や経営層からの反対・説得について
 - ・ 住民とのコミュニケーションの取り方（実施前と実施後）。特に実施前の声をもっと聞きたい
 - ・ 次回の事業所を変えた開催時に是非参加したいです（もちろん角田工場さんで開催されるなら角田さんにも）

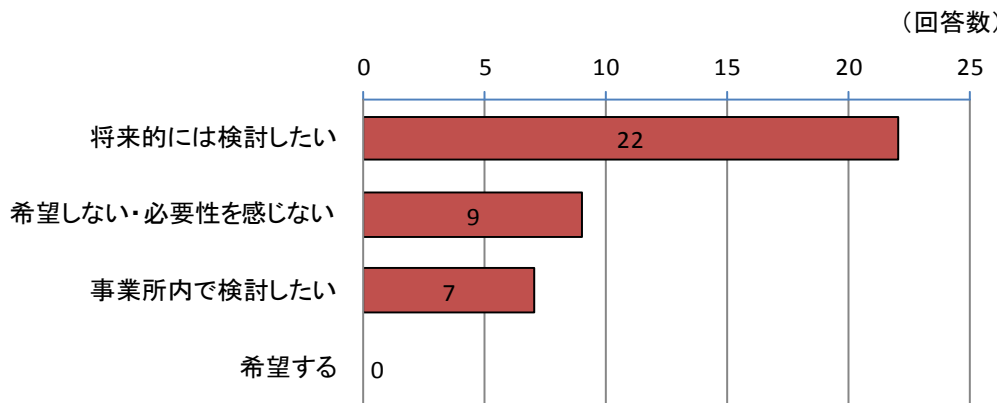
3 セミナー内容の今後の活用方法（複数回答可）



<その他の内容>

地域住民の減少（東日本大震災による）

4 宮城県のリスクコミュニケーションモデル事業(*)への応募意向



(*)これまでリスクコミュニケーションモデル事業では、県がモデル的な会合型リスクコミュニケーションの開催を、準備段階から総合的に支援する取り組みを行っています。

5 今回のセミナーの改善点・意見・感想

- ・大変参考になりました。リスクコミュニケーションの取り組みについて理解できました。(5名)
- ・ケーヒンさんの発表は良くわかり良かったと思います。準備も大変だったろうと思います。ご苦労様でした。(2名)
- ・地域住民との対話を欲している事業所が多くあることに感心しました。良いセミナーなので継続してほしいと思います。
- ・報告の形式が早く内容がつかみにくいところもあった。「化学物質」についてもリスク管理内容を増やしてもらいたい。
- ・まだ当社にとっては、現時点で取り組むには早いとの印象です。当社の問題を考えると立地(工業専用地域)や当社の内部体制(人材)等、今すぐ積極的に考えるべきテーマであろうか?と思えます。
- ・会社の目的をどこに置くのか?本来なら継続的にコミュニケーションを行うものとなるが、内容を知るにつれ問題点・課題も共有することとなり一回では見えてこない潜在課題があると感じている。利害が一致していないため。
- ・“寝ている子供を起こす”とありましたが、時間・費用面との実際の効果を確認して、今後進めていくかを事業所内で検討していきたい。
- ・当社はP R T R規制物質届出基準以外に該当していますが、規制物質以外でも今後住民への情報発信は必要性を感じました。昨年数年ぶりに夏祭りを実施し、まず当社社員の家族希望者の工場見学会を開催しました。こんなイメージで地域住民へアプローチしていく方法もあり得る?
- ・安心レベルから安全レベルの範囲に近づける。大切ではあるが今後は企業、地域一緒になって「環境クリーン化」を目指すことが必要だと感じました。
- ・これまでも地域住民の方々と意見交換会、工場見学、懇親会等を実施してきているが今回のセミナーを今後の取組内容の参考にしていきたい。
- ・今回はどのようなものかということで参加させていただきました。必要とは感じましたが問題もありそうなので今後検討していきたいと思いました。
- ・セミナーの対象者をどのレベルの人にしているのか。
- ・化学物質アドバイザーのセミナーを聞く事が出来たのは大変参考になりましたが、現場も是非拝見したかったです(一昨年は人数オーバーで制限されて参加できませんでした)。
- ・リスクコミュニケーションを実際に行っているビデオ等を見ることができれば、もっと理解を深められたのではないかと思います。
- ・化学物質を取り扱う者として、化学物質の危険性を再確認するとともに、そのことを地域住民の方にも深くご理解して頂かないといけないと思いました。
- ・取組事例1で信頼性の確保が興味深かった。事業者は「性能・能力」について説明しがちになるが、それでは住民には伝わらないということがよく分かった。
- ・化学物質のL C Aについては参考になりました。
- ・説明、発表内容等の準備に多大な日数・時間を要しているようだがもう少し簡単な方法はないものか?
- ・アンケートを書く時間は、次第に入れられない方がいいと思う。

6 今後のリスクコミュニケーションの進め方に対する要望

- ・(株)ケーヒンの事例発表でもリスクコミュニケーションつまり化学物質だけに固定せず環境コミュニケーションという広い視点でのセミナーを希望します。
- ・以前から言葉としてリスクコミュニケーションを聞いたことはありましたが創業40年が経過し近隣住民とのコミュニケーションをいざとろうと思ったときに現状ではすこし構えてしまうのが正直な感想

です。

・リスクコミュニケーション実施（モデル事業）が今後宮城県内で実施予定であれば傍聴者として参加したい。

・P R T Rも含めて知りました。

・リスクコミュニケーション推進の利点をもっとアピールできる方法を。

・やはり実例を聞く事が一番だと思います。現地開催での参加と共にセミナーも場を借りて開けたらなお、現実味があると思いますので是非企画をお願いいたします。

・リスクコミュニケーションとして独立した取り組みとするのでは化学物質に関して地域住民はピンと来ないと思う。地震や水害など災害が発生したときに発生する可能性としての化学物質の関わりからリスク管理・情報共有を地域住民と考えた方が地域住民が関心を持つと思う。事業者が使用している化学物質が分かってもどのように人体、環境に影響があるのかもっと上位の知見・データの明確な情報（国の機関の）が重要なのでは？

・他事業者の取組をうかがえるこのようなセミナーは今後も継続していただけると助かります。

・双方向のリスクコミュニケーションの推進を期待します。

・住民側から要望等が把握できてはいないが、それを収集しようとするコミュニケーションのイベント実施が前提となるのでなかなか一歩出せないように感じる。